令和２年度　第２回　伊那市総合教育会議会議録

◎招集年月日　　令和２年９月２４日（木）
◎開催日時　　令和２年９月２８日（月）　午後１時１５分～午後２時４５分
◎場　　所　　伊那市役所　庁議室
◎出席委員　　白鳥市長、教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員、黒河内教育委員
◎欠席委員　　なし
◎出席職員　　馬場教育次長、福澤学校教育課長、北林生涯学習課長、早川企画調整幹（市誌編さん）、北澤指導主事、小松指導主事、足助 ICT 活用教育専門幹、田嶋 SSW、伊藤教育総務係長、竹松 ICT 教育推進係長、田畑子ども相談室副技幹

１　開　　会

教育次長

おご案内のお時間なりましたのでただいまから伊那市総合教育会議、今年度 2 回目の総合教育会議を開催いたします。はじめに市長からご挨拶をお願いします。

２　市長あいさつ

今日は本当に青空が広がる秋晴れの清々しい天気でありまして、収穫の秋にふさわしい時季となりました。と言いながらも、コロナは相変わらず私達の身近にあって、様々な影響を与えているわけですが、この教育現場におきましても、コロナ禍というのは非常に深刻であると捉えております。

そうは言いながらも、休業中の学校の授業の対応で Zoom を使ったり、テレワークであったり、様々な対応をしながら、教育の現場の遅れを小さくしようとしてきております。またコロナによって、家庭が経済的にも貧困の家庭や困っている家庭もあります。

そうしたところにどのようにしてさりげなく手を差し伸べることができるか、いうことも今回のコロナの中ではありますので、今日はそうしたことも踏まえて、コロナによって生活が変わったり、考え方もいろいろ影響があったりした中で、中学生の実習室、また ICT の今後の活用、そうしたことを踏まえて、その他 SSW の先生からもお話をしていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。続きまして、教育長からご挨拶をお願いします。

３　教育長あいさつ

この総合教育会議は、毎回、大変豊かな意見の交換ができていることを感じ、大変ありがたいと思っています。教育委員会では、伊那市の様々な政策が「一人に確かに届く」ように、ということを運営方針の中に据えさせていただいて、取り組みを進めてまいりました。市長が先ほど「さりげなく」という言葉を使われましたけれども、本日の三つの柱、いずれもそうした視点を持っているものと思うところでございます。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。協議事項に入ってまいりたいと思います。ここからは市長の進行でお願いいたします。

４　協議事項
（１）中学生の自習室について

市長
　協議事項の１番から進めてまいりますので、お願いいたします。中学生の自習室についてということで、数年前から始めた中学生の学習の場の提供、また友達と会ったり触れ合ったりする場の提供ということで取り組んできておりますが、その状況について議題といたしますので、担当の方から説明をお願いします。

学校教育課長
「中学生の自習室」について説明

市長
　今年度、使わなかった予算があるということは、冬もやっても良いということでしょうか。

学校教育課長
　今年度 2 回というのが、今回の夏休み分と、3 月の春休み分ということになります。春休みについては、また 3 月に計画をして、中学生 1・2 年生を対象としていきたいと考えているところであります。

市長
　予算があれば、夏と冬と春と 3 回できるということでしょうか。

学校教育課長
　今年度の予算は 2 回分のみですので、来年度、予算を取ることができれば長期休業中が対象になりますので、夏休みと冬休みと春休みになるのではないでしょうか。

市長
　今、学校教育課長から説明をしてもらいましたが、このことについてご意見、また、今後のことについても含めていただけると。その場に行った方というのはいるのでしょうか。小松先生どうですか。

指導主事
　私は西箕輪公民館を担当させていただきました。中学生は本当に前向きで、私の認識ですと、3 年生はとても落ち着いている学年だと校長先生からうかがっています。2 部屋貸していただいたので、集中力のある 3 年生を 1 部屋に、もう 1 部屋を 1・2 年生に、といった形にしました。教えてくださるお 2 人の先生方が、出すぎず下がりすぎず支援してくださいました。これは学習の補償や食事の補償など、いろいろなねらいがありますが、とても良い試みだと思います。
　ただ今年はコロナ禍の中で夏休みが短縮されて、各中学校では例年、長い休みにはいろいろな学校で教室開放や、寺子屋という言い方をしますけれども、中学校独自でも学習支援をしているのですが、それらとの折り合いといいますか、日程的な調整が必要かと思われます。
　それから、本当に来たい生徒が来ることができているか、ということも検証していかなければなりませんが、とりあえず試行に 2 回ほど重ねて、今年度本格実施になったので、これをさらにまた発展的にやっていきたいと思いますし、公民館側の協力も本当にありがたかったです。

市長
　先ほどの説明の中で課題としては、大規模な中学校の扱いをどうするかというところもありますし、また一方では経済的側面から私達が「さりげなく」といったところの部分がきちんとできているかどうかといったところも具体的に詰めていきたい。
　あと予算的なところで、それほど予算がかかっているわけではないのだけれど、「教育に関しては予算がいくらかかってもいいよ」という方針なので、そうしたことを遠慮なく、予算的なところで躊躇することはなく、またマンパワーが足りない場合にどうしたらできるか、といったことも今後検討していかなければいけないと思います。
　大規模の学校の対応だとか、あるいは経済的側面の子どもたちが実際はどうだろうといったことも含めて意見をいただければと思いますがどうでしょうか。

子ども相談室子ども相談室副技幹
　夏休みは、子ども相談室と社協とで、自習室の人数よりは少ないですが、「子ども食堂」というお昼ご飯の提供と学習支援をさせていただきました。大体平均 25 から 30 人未満ぐらいでしたけれども、経済的に苦しかったり、要保護児童の中に含まれるお子さんたちでしたので、親を通じて誘ったり、申し込みを親自体ができない人をこちらから連れに行ったりしました。
　また、中学生の自習室では学習支援の方がいてよかったと思いますが、子ども食堂では子ども相談室の教育相談の先生が行ける日に行っていただいていました。経済面では自習室は軽食でしたが、子ども食堂ではしっかりお昼ご飯と、そこにも来ることができない生徒の家にはお弁当を配らせていただきました。

市長
　はい、他にどうでしょうか。

教育長
　これまで 2 回の試行を経て、改善点がいくつもあるわけですが、そうしたところにも工夫を入れながら、今回立ち上げてみました。実際に取り組んでみて、子どもたちが姿で答えてくれたな、というのが非常に私達の中にはあります。全ての子どもさんに開かれていく中で、家庭的な事情等がある子どもさんも、抵抗なくここに入ってこられるようにできるといいなと。今、田畑先生が言ってくれたような事柄と繋がりながら、大事にしていきたいなと思います。
　お話の中にあった学校の取り組みと、というのは非常に大事なところで、その学校の取り組みとの技術的な繋がりや、あるいはその支援の在り様と、うまく連携をとる形で更に子どもたちを支援することが具体的になってくるのかなと思います。
　また、情報の出し方なのですが、実は今回、やや学校の欠席が多い子どもさんがここに参加してくれたという例がありました。情報がきちんと子どもさんを通して、また、直前に安心安全メールを私の方から出させていただいているんですが、保護者の方のところへそういった情報がきちんと届くことで、そうした場所へ子どもが出やすくなってきているという部分もあるのかな。その子が書いてくれた感想を読みますと、「こんなところにまた勉強しに来たくなりました」というような書き方をしてくれていて、そういう子どもの言葉は私達にとって本当に宝物のような評価だなと思います。

市長
はい、他にどうぞ。

教育長職務代理者
　二点ありますが、一つは伊那公民館区の子どもたちが大変多いということについては、ぜひ来年度検討していきたいということ、3ページの11番ですか、前向きにいきたいなと思うところであります。それに合わせて二つ目ですが、それぞれ学習支援をしてくださったスタッフについて、子どもたちの感想を見ると、どの会場でも、「大変わかりやすく丁寧に教えていただいてよかった」とあり、この支援が非常にありがたかったということになります。
　会場が増えると、また支援員の方へのお願いをしなくてはならないのですけれども、例えば、上伊那には退職校長会「ぬるみの会」という会があります。ここでは現場の学校や子どもさんたちへの支援を、できることはぜひお手伝いしようという形でおりますので、スタッフについてはそういったところへもまた声掛けをしながらいけば、ある程度の見込みができるかなというように思います。

市長
　そうですね、「ぬるみの会」という退職した先生方の会があるので、会場が増えればマンパワーも必要になるので、そうしたときには是非お願いをして協力していただくということで。また、大規模校の対応というのも今から考えてもらって、10人、20人の生徒が集まりやすいような地区と、その辺りの学校と、考えてもらえればよいかと思います。
　他にはどうですか。

教育委員
　概ね良い反応というか、子どもたちからも運営した方々の手応えがあったということであれば、試験的にやってきたものなので、まだ知らない人や、これまで日程が合わなかった人もいるでしょうし、来年度以降は、今回よかったからまた行こうという人に加えて新しく来る人もいると考えれば、会場にしても支援の人にしても、どんどん広げていく。思い切って、良いことならやっていったらいいのではないかと感じています。

市長
　1ヶ所当たり20人前後が一番いいという話でしたが、1つの公民館の中で1階と2階に分けて20人と20人で行うことも可能ですか？

学校教育課長
　それは可能ではあります。

市長
　例えば春富中学校で「20人ですよ」と言っても、もっと来る可能性もある。そうしたときに、20人の群れを三つ作って、それぞれ対応する支援の先生たちと、給食をまかなえるスタッフでやれば、一か所の公民館でもできるのでは。

教育長
　横へ広げていくというのは、西春近地区と東春近地区で富県公民館でも会場とするとか。西箕輪ではすでに会場を分けてくれていて、一定の人数がゆったりした中で、きっちりできるような工夫をしてくれています。

市長
　中学生の自習室については、先ほど触れた経済的側面で学習の機会をカバーできるような環境作りと、家でずっと 1 人で毎日を過ごす子どもたちに外出する機会と場の提供、あとは学習を規則正しくできる、というようなことを目的として、東春近公民館から始まった。教育長の発案で始まって 3 年目ですよね。それがだんだん広がってきている。来年はおそらくもっと広がっていくので、今からこうした反省だとか、いろいろな意見を聞いてもらって、来年に向けて準備をしていく。場合によっては春休みに向かって準備ということになると思うので、反省点や感想を上手に咀嚼して、次へ、また次へと、繋げていければいいかなと思います。

教育委員
　親目線で見たときに、公民館活動としての位置付けで広げていくイメージなのか、それとも学校教育という形で広げていくのかということが少しわかりにくい。というのは、これでコロナ落ち着いてしまえば良いのですが、過密状態を避けるという話になると、公民館の中だけではキャパオーバーになってくると思います。
　親の感覚でいくと、学校の先生でなくてもいいのだけど、学校が空いていて、クーラーがある部屋があるならば、学校の場を開放してほしいという意見も次のステップでは出てくるのかなと思ったりしています。施設的な優位性を生かした形の中で、もう少し人数を増やす検討というのは、この次のステップで必要なのかなと思います。

教育長
　やはり学校教育と、生涯学習の公民館と、関わりを重ねながら作っていくことが大事かなというのが、今年の一つの実感というか成果かなと思います。そういう中で、可能性を広げていけるといいなと考えています。

市長
　他にありますでしょうか。

子ども相談室子ども相談室副技幹
　募集の際に、全生徒を対象にチラシを配ると思いますが、殺到して抽選みたいな形になった場合に、先ほどの話から、「不登校気味の人がこういうところなら行くことができたよ」というと、やはりそういう子たちに目を向けて優先してあげたいなという気持ちもあります。
　また日頃、塾に通っているという人より、「ちょっと塾には通えないけれど、こういうところがあるならチャンスだな」という人が行けると良いなと思います。そういう線引きをするのは難しいと思いますが、抽選で当たった人の中に、「いつもは家に居がちだけど、そこなら行くことができた」という子が入っていれば、余計いいなと思いました。募集の工夫になるとは思うのですが、ぜひそういう子にも目を向けていただけたらと思います。

市長
　元々そういうアプローチから始まっているので、基本的には「家庭の事情で塾に行けない」「不登校気味だけどこういうところには行けるよ」という人たちに来てもらえるなら優先したい、という思いでもいたのですが。増えてきたときにどうするのか、小松先生の方で何かありますか。

指導主事

思いは田畑さんと全く同じなのですが、難しいですよね。「塾に行けない人を優先します」と表には出せないと思います。特別支援学級に所属しているお子さんも来てくださったので、私はとても素敵なことだなと思っていました。不登校の方も来てくださると嬉しいのですが、どのようにやっていくかは、相当高度なテクニックが必要です。仕分けできないし、「ちょっと、お昼食べていない人来なさい。」とは言えないので難しいです。

市長
その辺りは極めてファジーなところでもあるけれど、いい意味で忖度できればと思います。

教育長
一番大事なところなのだと思いながら、工夫できるところがあるか、みんなで知恵を集めてみたいと思います

子ども相談室副技幹
人数が大勢であれば、学校の先生と相談して、優先的に当選にするということも、上手にできる場合があると思いますね。

市長
また工夫してみましょう。
では最初の方については以上にして、次に行きます。

（2）小中学校における ICT 教育の活用について

市長
小中学校における ICT 教育の活用ということで、今回のコロナによって、伊那市の場合、子どもたちにタブレットが行き渡る環境を含めて、学校によっては非常に高いレベルの遠隔教育ができました。まだまだよちよち歩きの部分もあったのですが、その後、第 2 波第 3 波がくることを想定して、平常の学校生活に戻っても、この遠隔教育、ICT 教育については進めるということで取り組んでまいりました。その辺りの今の状況と、今後の到達点といいますか、いつまでにどこまで進めるのかといったことを考えてもらいたいと思います。
特に今回の新しい総理大臣は、デジタル行政や、省庁間の壁を突破するということ、特にデジタルについてかなり高いレベルの要求をしているような話を聞いています。経済産業省だけではなく、文科省についても、今までにない取り組みがごく普通になってくると思いますので、そんな意味においても今回取り組みの中心となってもらった足助先生にも来ていただいておりますので、その辺りの皮膚感覚と、これからの到達すべき方向や意見をこの場で出してもらえればと思います。
それではまず説明からお願いします。

学校教育課長・ICT 教育推進係長・ICT 活用教育専門幹
「小中学校における ICT の活用について」について説明

市長
支援センターの支援員の人数は、まだ増えてはいないですか。

学校教育課長
　募集をしてもなかなか、増えていません。

市長
　今２名、３名ですか。

足助先生
　２名です。

教育次長
　１人入ると１人辞めてしまう、というような状況になっています。

市長
　どうやったら確保できるかというところからアプローチしないと、いつまでたっても来ませんでした、となる。今、学校現場でそういうサポートをしてもらえる人が欲しいというのは実際にあると思うので、結果が出るような取り組みをしないとまずいと思う。例えば、足助先生のお知り合いとかで、全国にいる人の中で伊那へ来て教えられる人はいませんか。

足助先生
　全国で知っている人はみんなそれぞれ活躍しているので、ちょっと難しいかと思います。

市長
　活躍の場を伊那へ移してもらうなど、どこか民間の企業でもないでしょうか。

教育次長
　企業にいらっしゃる方がここへ来て、ということは、なかなか難しいのでは。

市長
　例えばふるさと企業人のような制度を使って、企業から３年間、こちらに来てもらうとか。

教育次長
　支援員は、言ってみれば足助先生の手足となっていただく方であり、企業人で来ていただく方というのは、足助先生のような活躍をしていただく方ということになると思いますので、その制度でというのはなかなか難しいのかなとは思います。

市長
　いろいろなチャンネルを使って、どうやって集めるかということをしないと。その制度がこうだからできませんと言っているとおしまいです。制度を上手に解釈して要求することによって、もしかしたら派遣してもらえる人がいるかもしれません。ふるさと企業人というのはどこの会社でもOKだから、もっと柔軟に考えてみてください。

教育長
　入ってくださって、いい感じで取り組みを始めてくださったなという方が、しばらくすると

お辞めになるというようなことが実は何件かあってですね。そうした辺りのところが一つのネックになっています。

市長
　今までの方で辞めた原因は何ですか。

学校教育課長
　過去にあったものでは、体調を崩されたという方がいました。何か自分の資格があって、このICT以外の資格ということですが、その資格を生かせる仕事をしたいという方でした。

市長
　地域おこし協力隊みたいな形で集まらないでしょうか。

学校教育課長
　地域おこし協力隊では、「特色ある伊那市の教育の発信」ということで1人入ってもらっております。その方にはこちらのICTの関係にも携わってもらっております。

市長
　また募集をして、1人2人と増やして、一緒にやってもらって。3年が終わったら、残ってまた働いてもらうとか。いろいろなやり方が考えられると思います。今はセンターの充実や、センターのスタッフの確保が一番ポイントになるので、そこに力を注いでもらいたい。それができないと思ったことができない。今いる2人にみんな負担がいってしまいます。

教育委員
　実際の業務内容や時間、待遇、やりがいなど、ここにいる多くの人はその情報が欲しいと思います。辞める理由は、待遇と仕事と成長と、そういったバランスがずれているから辞める、一言でいいますとそういうことだと思うのですが、足助先生の実感で言うと、何が足りないのでしょうか。

足助先生
　僕の実感で言うと、給料が安いということだと思います。今、来られている方は非常にやる気があって、現場のことを考えてくれて、僕も舌を巻いてしまうくらい一生懸命やってくれています。でもやはりその彼も、お給料のところでは、「これをやっていて、家庭は支えられないね」という話にはなります。一番は、そのあたりだと思います。

市長
　原因が明確だったら簡単ですよね、上げればいいだけなので。「人が集まりません」でおしまいだけど、原因として給料安いのが一つですよ、ということであれば変えればいいわけで。

教育次長
　待遇面でなかなか答えられてないということは、感じていました。

教育委員
　１つの事例ですが、マイクロソフト社が主催する、学校にICTをどう導入するかという展示

会があり、5 月頃に行ってきたのですが、そこには伊那市から行っている学校の先生がいらっしゃいましたけど、その方は伊那市のある学校で活躍して、ダントツでその取り組みを進めていたのですが、マイクロソフトとか、そういう会社の方へ転職をするとのことでした。

能力があって、その能力を高く評価する。世の中みんな、企業でも学校でも、そういう人たちがそちらへ流れるというのは、自然の市場原理なので。ですので、伊那市にとって今の 2 名の体制をサポートすることが大事なのであれば、それなりのやりがいというか、成長できて、待遇がいい。この２つを用意する以外にはないと思います。

市長

どうも簡単な話だったというか、やればできそうな話なので、すぐに今日この後に対応を考えてもらって、取り組みを始めてください。他にどうですか。

教育長職務代理者

２点ありますが、電子教科書等があるのですが、現在無償化の動きが出てきているかと思います。伊那市は整備ができており、多分該当すると思いますので、早めに取り組んでいただくと良いかなと思います。

２点目は「オンライン学習支援のポイント」、これはセンターで作られたのでしょうか。やはり実務を積んできているので、非常に明快であるように思います。一般の先生方が見てもよくわかる。そういう中で、下の①②③の段階のところですが、これは気をつけないと、各学校でこのパターンが教師主導的な授業になりがちになります。実は私も 9 月に学校訪問させていただく中で、このコロナの間にそういう動きがありました。課題等は配布ではなく、提示するのですが、その前に子どもの実態があるんですよね、願いとか疑問とかね。回答を提出して、今度は指導添削するところでは、本当に子どもが行き詰まっているところを共に解決する、十分それができてくると思うのですが、そういう部分を入れていただいて、自ら学び解決していくという形ができるといいなと思いました。

教育長

今、言ってくださったとおりで、伊那市でまとめてきているポイントがありますが、9 年間に亘るカリキュラムを整備しているのですが、非常に先進性の高いものを作ってきてくれていると思っています。指導官がやはり卓越し、きちんとしたものがあるのでそういうものができるのだということを今、改めて思っています。お取り組みいただきたいなと思います。

市長

この件についてはもう大至急、とにかく支援センターをきちんとした支援ができるところにしないと、いろいろな先生たちのところに行き渡らないというか、スキルが上がっていかないので、それが上がらなければ子どもたちにも届かないということですから、給料面についても、待遇面についても、人をどうやって集めるかということを含めて、仕組みを考えて答えを出して取り組んでもらうということでお願いをしたいと思います。

また休業中ということで今までやってきたのですが、休業中だけでなく、日常的にも使える環境という時代になっていますので、それをやっていかないと「さあ休業だからやりましょう」というよりも、積み上げという形になるので、授業のあり方も、ICT の環境を作りながら常に確認をしたり、忘れないように使っていったり、新しい取り組みをしたり、ということを学校現場でもやってもらえればと思います。

５　閉会

教育次長

　ありがとうございました。また次に繋げていくように検討を進めたいと思います。それでは時間になりましたので、以上をもちまして伊那市総合教育会議を終了いたします。